

## 昭和村統合小中学校推進協議会

# ともに学び、ともに育つ学び舎づくり

▶ 問合せ 教育委員会学校教育係 ☎ 24-5120



7月9日(水)、第3回協議会として、川場村立川場学園(義務教育学校)の視察を行いました。協議会としての質問事項を事前にお送りし、その回答を中心に川場学園の状況をうかがうとともに、施設の見学をさせていただきました。視察後、次回協議会に向け、現時点で昭和村にとってよいと考える小中一貫教育のかたちは「義務教育学校」または「併設型小中一貫学校」いずれがよいかのアンケートを依頼しました。

### 視察の様子



### 川場学園への質問

**Q** 義務教育学校とした経緯は？

**A** 併設型小中一貫校(北海道当別町)と義務教育学校(京都大原学院)の視察を経て、「川場村ふるさと人材育成構想」を実現するためには9年間を通じた教育の徹底が必要であるとの結論に達し、義務教育学校を選択しました。

**Q** 義務教育学校の構想から開校までに要した期間は？

**A** 平成27年度 川場村ふるさと人材育成構想を作成  
平成29年度 地区別懇談会で村長・教育長が小中一貫校への移行の基本的な考え方を住民に説明  
令和2年度 川場村小中一貫校基本構想を作成  
令和4年度 開校準備委員会を開催。名称を「川場学園」に決定  
令和5年度 開校準備室開設  
令和7年度 「川場学園」開校

**Q** 教育課程や学校設備で留意した点は？

**A** 教育課程編成部会を組織し、指導計画案を作成したことによりスムーズなスタートができました。特別教室、学年普通教室以外はすべて共有としています。

**Q** 建設場所はどのようにして決定した？

**A** 川場村小中一貫校基本構想により決定しました。

**Q** 義務教育学校に対する住民理解や合意形成方法は？

**A** 平成29年度に地区別懇談会で村長・教育長が小中一貫校への移行の基本的な考え方を説明しました。

**Q** 義務教育学校としたことで、良くなったと感じられる点は？

**A** 1年生から9年生が同じ学校で学んでいることにより、お互いがよい刺激を受け上級生はリーダー性を伸ばす機会が増え、下級生は上級生が模範となり目標をもって生活することができています。学習面では、9年間を見通した一貫性のある学びが計画、実施できています。中後期ブロックでは、教員の専門性を生かした教科担任制を行うことが可能です。教職員については、小中のやり方の違いがあり共通理解を図るのに難しい面もありますが、教職員数が増え、ブロック性を取り入れたり、多くの学年と関わりをもつことで意見交換が積極的に行われ、とても活気のある教職員集団となっています。

**Q** これから改善したい点は？

**A** 3ブロック性をさらに機能させていくため、ブロック長を中心とした組織的な取り組みを推進していくことが重要と考えています。施設面では個別対応等の部屋数が十分ではありません。